

σταφυλή

スタフューレ

知っておきたいキリスト教のことば (179)

葡萄 ぶどう

ぶどうはオリーブと共に、聖書によく出てくる植物です。聖書の舞台となる地中海世界では、早くから栽培されていました。

イザヤ書 5 章 1～7 節には、「ぶどう畑の歌」が載せられています。どのようにぶどう畑が作られていたかとともに、イスラエルの人たちをぶどうと象徴的に現していることも分かります。また詩編 80 編 9 節にも、「あなたはぶどうの木をエジプトから移し 多くの民を追い出して、これを植えられました」と、イスラエルをぶどうにたとえる箇所がみられます。

新約聖書の中でも、「新しいぶどう酒と古い革袋(マタイ 9:17)」、「ぶどう園の労働者(マタイ 20:1～16)」、「ぶどう園と農夫(マタイ 21:33～41)」のようなたとえ話が語られており、人々にとってぶどうは身近な植物だったのでしょうか。

当時、ユダヤの祭司や神さまから聖別された人たち(ナジル人)は、ぶどう酒を口にしませんでした。またそうでない人が飲んでも、酩酊はするなという戒めもあります。ただ雨の少ない地域において、ぶどうを発酵させたぶどう酒は極めて一般的な飲み物だったようです。

さてイエス様は、「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。(ヨハネ 15:1)」とご自分をぶどうの木にたとえられています。そして「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。(ヨハネ 15:5)」と、わたしたちとの関係を教えられます。

イエス様は最後の晩餐のときに、杯(ぶどう酒)に「わたしの契約の血」という新しい意味を持たせました。わたしたちはそれをいただき、生かされるのです。

次回は「舟」です。お楽しみに。



「葡萄の聖母」

ピエール・ミニヤール

(1612～1695 年)

はっきり言うておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。

(マルコによる福音書 14 章 25 節)

